

学校と地域の協働実践セミナー 中南地区研修会

9月28日(水)弘前市総合学習センター

参加者 18名

学校と地域の協働実践セミナー中南地区研修会が、弘前市総合学習センターで行われました。今回は、青森中央学院大学経営法学部教授 高橋 興 氏を講師にお迎えして、「地域の力を学校へ～地域学校協働による活動のすすめ～」と題して、地域による学校支援の流れ、地域と学校の連携・協働が必要な理由、連携・協働を実現するための課題などについてお話いただきました。

「地域と学校の連携・協働」が必要な理由

地域と学校の連携・協働が必要な理由として、高橋先生は次のようなことを話されました。

- ・次々と生ずる新たな課題に対して、学校と保護者、地域住民、各種団体や企業等が一体となって取り組む必要がある
- ・地域住民による確かな学校理解の必要性 →親としての役割の再確認や家庭教育の見直しの機会
- ・学校を中核とした「地域（まち）づくり」のきっかけづくり
→学校は多くの地域住民が格別な想いを持つ場所・施設であり、「本来、教育は学校（教職員）のみでは不可能」との認識が、地域住民にも浸透してきている

「連携・協働」を実現するための課題

学校と地域がこれから先、今まで以上に連携・協働をしていくために、まずは**教職員の意識改革をいかに進め、成果をあげるか**が重要な課題になっていると話されました。

また、雇用形態の激変により、**ボランティアを発掘・確保**することが一層困難になってきていて、ボランティアの募集方法のさらなる工夫・改善の努力が必要だと話されていました。



演習「学校を支援する新たなプランを作成しよう」

後半は、グループに分かれて学校を支援するためのプランづくりを行いました。参加者は、県内で行われている学校支援ボランティアの活動例を参考に、グループで意見を出し合いながら、プランを作成しました。

【グループから出されたプラン】

- 活動名「**小中校生は町の子どもたち**」
ねらい 落ち着いた学校環境をつくる **活動内容** 子どもの見守り（教室外でのサポート）、子どもの話を聞いてあげる、簡単な学習支援
- 活動名「**わんどいるでばな**」
ねらい 教師の負担軽減、地域の大人との交流
活動内容 就学時健診における手伝い



<参加者の声>

- ・コーディネーターとしての居場所、学校地域は対等なんだということを話していただき、認めていただいているんだなあ嬉しく思いました。（学校支援コーディネーター）

<講師紹介>



高橋 興 氏（青森中央学院大学 経営法学部 教授）
・青森県立高等学校校長（2校）、青森県教育庁生涯学習課長、同教育庁参事、青森県総合社会教育センター所長等を歴任して現職
・2016年～文部科学省コミュニティスクール推進員（CSマイスター）